

2 事業の概要と成果	
<p>(1) プロジェクト 目標の達成度 (今期事業達成目標)</p>	<p>【プロジェクト目標】 事業対象地域の住民が、母子保健サービスの提供者と協力して、妊産婦及び2歳未満児の予防可能な疾患や死を予防するための環境を整える。</p> <p>3年間の事業期間を通じて目指す、上記プロジェクト目標の達成度を測るため、以下の6つの指標を設定した。1年次のため、いずれも数値としての達成度は十分ではないものの、2年次以降も活動が順調に推移すれば、プロジェクト目標はもちろん、上位目標である「事業対象地域における妊産婦及び2歳未満児の健康状態が改善する」の実現にも寄与するものと考える。</p> <p>指標1) 住民の栄養・衛生・母子保健に関する知識や行動が、事業開始時と比較して70%改善する。 ⇒達成傾向 (28%から43%へ)</p> <p>指標2) 世帯の食の多様性スコア(HDDS)において、3年次の調査対象世帯全体のスコアが1年次の調査の上位33%の平均値と同等になる。 ⇒達成傾向 (事業開始時の平均摂取品目数は5.49で、増加傾向が見られる)</p> <p>指標3) 50%以上の母親が完全母乳育児を実施する。 ⇒達成傾向 (18%から35%へ)</p> <p>指標4) 受益者の70%がハエ防止型トイレを使用する。 ⇒達成傾向 (14%から22%へ)</p> <p>指標5) 50%の妊婦が産前健診を4回以上受診する。 ⇒達成傾向 (18%から26%へ)</p> <p>指標6) 50%の出産が、有資格技能者の立ち合いのもと行われる。 ⇒達成傾向 (17%から21%へ)</p>
<p>(2) 活動内容</p>	<p>【今期事業達成目標】 事業対象地域の住民が、栄養・衛生・母子保健サービス利用の重要性、及び各村における課題を認識し、改善に向けた意欲を高める。</p> <p>本事業は、以下の各活動を実施することで、今期の事業達成目標である「住民の行動変容」の実現を目指した。</p> <p>成果1に係る活動：住民が現状と課題を認識し、母子保健の改善に向けて行動する土台をつくる</p> <p><u>活動1-1：アドボカシーミーティング開催 (1年次)</u> マイエー地区におけるアドボカシーミーティングは、軍政下における行政との連携を公にすることによる負の影響を考慮し、実施を見合わせた。行政担当者とは2022年4月にミーティングを行い、その後も定期的に進捗報告をした。また、集落単位での同ミーティングには、村長、キーパーソン、世帯主をはじめ幅広く住民の参加を呼びかけ、2022年7月から9月にかけて30村で実施し、事業概要についての説明を行った。結果、1,120名の参加(男性663名、女性457名)を得た。</p> <p><u>活動1-2：事業評価の実施 (1~3年次)</u> 2022年5月、202世帯を対象にベースライン調査を実施した。実施にあたっては、事業スタッフの雇用が遅れが生じていたことから、調査員を一時雇用し</p>

た。また、2023年5月にはフォローアップの調査を行った。

活動1-3：状況分析ファシリテーション（1～3年次）

活動1-1（集落単位でのアドボカシーミーティング）に合わせ、事業スタッフがファシリテーションを行い、世帯ごとの状況を記した村のマップを作成しつつ、状況分析のための情報を収集した。

活動1-4：母子保健の改善に向けた計画策定・見直しワークショップ開催（1～3年次）

事業対象全30村で、一回ずつワークショップを行った。

活動1-5：保健研修ボランティアの募集（1～3年次）

事業対象全30村で、研修内容に応じて70～83人のボランティアを確保した。
栄養研修1：70人 水と衛生（WASH）研修：81人 栄養研修2：83人

活動1-6：保健研修ボランティアへのToT実施（1～3年次）

ボランティアの居住地の広がりを考慮し、1日半のToT研修（Training of Trainers, 指導者研修）を、5つの会場で実施した。

活動1-7：IEC教材作成（1～3年次）

イラストや写真を活用し、視覚的に理解できる様に工夫したビニール製のポスターとフリップチャートに加え、復習のためのプリント教材を作成した。

活動1-8：PRツールの作成（1～3年次）

事業内容や母子保健に関する知識を記載した年間予定表を520部、また、ODAのロゴが入ったTシャツを130着作成し、配布した。

成果2に係る活動：対象村で妊産婦及び2歳未満児の栄養改善に向けた行動が促進される

活動2-1：世帯の食の多様性調査の実施（1～3年次）

2022年5月、ベースライン調査とは別の100世帯を対象に調査を実施した。

活動2-2：栄養に関する保健研修の実施（1～3年次）

2022年11月から12月にかけて、及び2023年12月に研修を実施した。講師は活動1-6（保健研修ボランティアへのToT）で研修を受けたボランティアが務めた。また、研修実施後に栄養価の高い野菜の種を肥料とセットで配布した。

活動2-3：栄養ボランティアグループの形成（1年次）

2022年11月までに、全30村で栄養ボランティアグループが形成された。

活動2-4：成長モニタリング（GMP: Growth Monitoring and promotion）の実施（1～3年次）

2022年11月以降、延べ734人の5歳未満児を対象に成長モニタリングを実施した。

活動2-5：家庭訪問による食習慣の観察（1～3年次）

2022年11月以降、栄養失調児及び栄養優良児、計62人を対象に、食習慣を観察した。

	<p><u>活動 2-6：離乳食教室の開催（2～3 年次）</u> 2 年次以降に実施する。</p> <p>成果 3 に係る活動：対象村の衛生環境が改善する</p> <p><u>活動 3-1：衛生に関する保健研修の実施（1～3 年次）</u> 2023 年 1 月から 2 月にかけて研修を実施した。講師は活動 1-6（保健研修ボランティアへの ToT）で研修を受けたボランティアが務めた。</p> <p><u>活動 3-2：モデルトイレ（ハエ防止型トイレ）の建設（1 年次）</u> 2023 年 1 月以降、計 34 基のモデルトイレを建設した。</p> <p><u>活動 3-3：ハエ防止型トイレの建設（1～3 年次）</u> ハエ防止型トイレ 200 基分の資材を提供し、住民自身が建設を実施した。</p> <p><u>活動 3-4：水濾過器の設置（1～3 年次）</u> 水を濾過するフィルターを 200 個を設置した。</p> <p>成果 4 に係る活動：必要に応じた母子保健サービスの利用率が向上する</p> <p><u>活動 4-1：母子保健サービスに関する保健研修の実施（2～3 年次）</u> 2 年次以降に実施する。</p> <p><u>活動 4-2：連携強化ミーティングの開催（2～3 年次）</u> 2 年次以降に実施する。</p> <p><u>活動 4-3：マイエー地区病院への医療資機材の供与（1 年次）</u> 2022 年 12 月、出産及び出産前後の緊急対応に必要な医療資機材として、電動吸引装置、分娩吸引、LSCS（子宮下部帝王切開）手術セットを供与した。当初は出産前後の緊急対応に必要な酸素濃縮器の供与も予定していたが、既存の医療機器を使用することで二次医療機関としての機能を維持できることが確認されたため、同機器の供与は取りやめた。</p> <p><u>活動 4-4：小規模インフラの建設（2～3 年次）</u> 事業活動を通じて明らかになった村ごと状況をもとに、Pain Yi 村を管轄する Nar War 地域補助保健センターの建設を 2 年次以降に行うことを決定した。行政の規定に沿った建設計画を作成するには相応の専門性が必要であるため、外部エンジニアに準備作業を委託した。</p>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p>本事業は、プロジェクト目標である「事業対象地域の住民が、母子保健サービスの提供者と協力して、妊産婦及び 2 歳未満児の予防可能な疾患や死を予防するための環境を整える」を 3 年間で実現するため、今期事業達成目標として、以下のことを掲げていた。</p> <p>【今期事業達成目標】 事業対象地域の住民が、栄養・衛生・母子保健サービス利用の重要性、及び各村における課題を認識し、改善に向けた意欲を高める。</p> <p>上記を測るために設定した 4 つの指標の達成度は次のとおり。</p> <p>成果 1：住民が母子保健に関して改善すべき事項を発見する。 指標 1) 全 30 村における母子保健の現状を改善するための行動計画の策定を通じ、住民の協働によって改善できる課題が 2 つ以上明らかになる。</p>

	<p>⇒達成（全 30 村）</p> <p>指標 2) 住民の栄養・衛生・母子保健サービスに関する知識や行動が、事業開始時と比較して 20%改善する。 ⇒ほぼ達成（28%から 43%へ上昇）</p> <p>成果 2：住民の母子保健の改善に対する意欲が高まる。</p> <p>指標 3) 対象村の 5 歳未満児の 50%が身長・体重を少なくとも 2 回測定する ⇒達成（50%）</p> <p>指標 4) 対象地の 15%の世帯が、ハエ防止型トイレを建設することに意欲を示す。 ⇒達成（37%）</p> <p>以上のとおり、今期の目標は、ほぼ達成することができた。これにより、3 年間で達成すべきプロジェクト目標の実現に向け、正しいスタート地点に立ったと言える。</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>本事業では、地域住民の中からボランティアを募集し、研修を通じて得た知識を自ら住民に伝えてもらうように工夫している。人に教えることは記憶の定着につながり、将来的にも独自に保健知識を伝え続けられるようになることが期待できる。また、栄養に関する研修では、知識だけでなく、野菜の種の配布もあわせて行うことで、地域住民が栄養改善に向けた行動を実践、継続できる環境を整備している。</p> <p>ハエ防止型トイレも事業側で建設までするのではなく、設置に必要な資材の提供にとどめており、長期的に自ら管理を続けられる状況の実現に貢献している。</p>